

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和7年度病虫害発生予察技術情報第2号について

病虫害発生予察技術情報第2号(トマトキバガ)を発表したので送付します。

本年度、侵入害虫であるトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺数が、急増しています。また、県内初となるトマトへの被害が確認されており、被害拡大に対する警戒が必要です。ほ場での発生に十分注意してください。

技術情報第2号

1 対象作物名：トマト、ミニトマト

2 病虫害名：トマトキバガ

3 発生状況

- (1) トマトキバガは、国内では令和3年10月に熊本県で初確認されたのを皮切りに、現在全国で発生が確認されている。
県内では令和4年3月にフェロモントラップをトマト及びナスほ場周辺13か所に設置したところ、同月に2か所で雄成虫が誘殺され、令和4年度中に13か所のうち12か所で誘殺が確認された。
- (2) 令和7年4～5月において、県内3か所のトマトほ場周辺に設置したトラップにおける誘殺数は前年同時期より多かった(図1)。
- (3) 令和7年5月上旬、県北部地域のトマトハウス内において県内1例目となる農作物への被害(葉及び果実の食害)が確認された。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 成虫は翅を閉じた状態で体長5～7mmと小型である(写真1)。幼虫は、終齢で約8mm程度となり、体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する(写真2)。
- (2) トマト葉への食害は、幼虫が緑色の部分を食べ、薄皮だけが広範囲に残り白変する(写真3)。果実への食害は、食入により穴が生じる(写真4)。
- (3) 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、パレイシヨ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。
- (4) トマトキバガの発生が疑われる場合、農林業総合試験場病虫害部予察課または各地区の普及指導センターに連絡するとともに下記対策を行う。
- (5) 被害葉及び被害果は、ほ場外への分散を防ぐため、速やかに薬剤防除を行った上で、ほ場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに適切に処分する。
- (6) トマト及びミニトマトにおいて、本虫に対する登録農薬は別表のとおりである。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRACコードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。

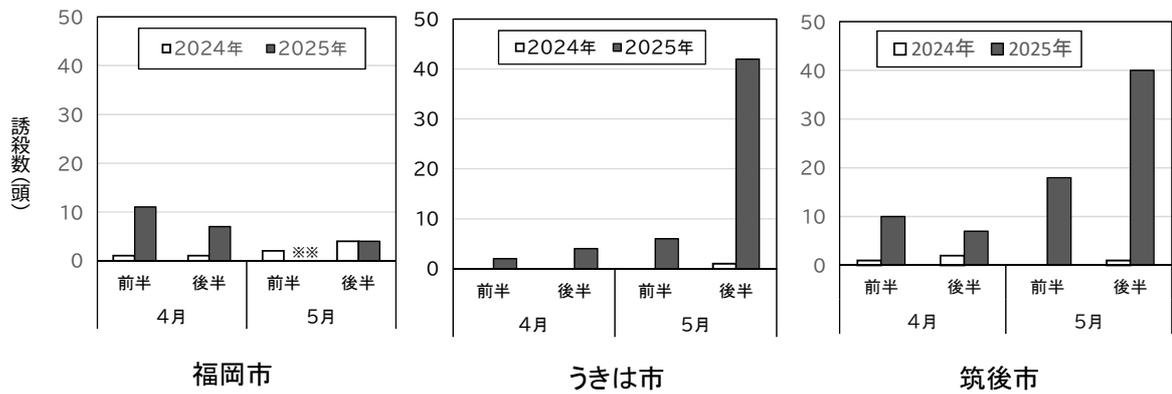


図1 フェロモントラップにおけるトマトキバガの誘殺成虫数

※ 2023年4月及び5月はいずれのトラップにも誘殺がなかった。

※※ 2025年5月前半の福岡市はトラップ不具合のため欠測

【写真提供：熊本県病害虫防除所】

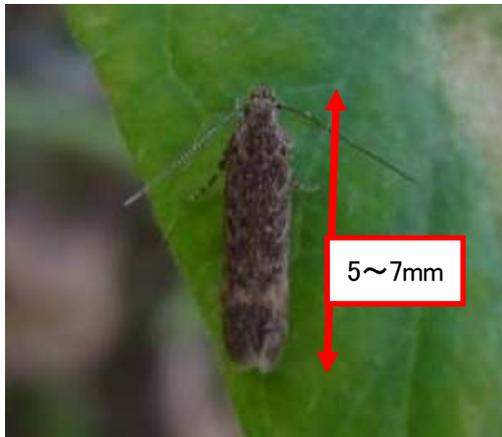


写真1 トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ幼虫



写真3 葉の食害痕



写真4 果実の食害痕

○病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。

福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html>

または右QRコード①

①⇒



○X (旧Twitter) で定期情報や警報等発出のお知らせをしています。

Xの本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://x.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②

②⇒



別表 トマトキバガに対する防除薬剤

農薬の名称	登録の有無		IRAC コード	農薬の種類	使用時期	希釈倍数使用量	使用方法	本剤の使用回数
	トマト	ミニトマト						
ディアナ SC ラディアント SC	○	○	5	スピネトラム水和剤	収穫前日まで	2500～5000 倍	散布	合計 2 回以内
ダブルシューターSE	○	○	UNE・5	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	2 回以内
アフファーム乳剤	○	○	6	エマメクチン安息香酸塩乳剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	5 回以内
アグリメック	○	×	6	アバメクチン乳剤	収穫前日まで	500～1000 倍	散布	3 回以内
アニキ乳剤	○	○	6	レピメクチン乳剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	3 回以内-
エスマルク DF ゼンターリ顆粒水和剤	○	○	11A	BT 水和剤	発生初期 但し、収穫前日まで	1000 倍	散布	-
チューンアップ顆粒水和剤	○	○	11A	BT 水和剤	発生初期 但し、収穫前日まで	2000 倍	散布	-
コテツフロアブル	○	○	13	クロルフェナピル水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	3 回以内
トルネードエース DF ファイントリム DF	○	×	22A	インドキサカルブ水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	合計 2 回以内
アクセルフロアブル	○	○	22B	メタフルミゾン水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	3 回以内

(2025 年 5 月 14 日時点)

別表 トマトキバガに対する防除薬剤（続き）

農薬の名称	登録の有無		IRAC コード	農薬の種類	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の使用回数
	トマト	ミニトマト						
プレバソンフロアブル5	○	○	28	クロラントラニプロール水和剤	育苗期後半～ 定植当日	100 倍 1 株当たり 25ml	灌注	1 回
					収穫前日まで	2000 倍	散布	3 回以内
フェニックス顆粒水和剤	○	○	28	フルベンジアミド水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2 回以内
ベリマーク SC	○	○	28	シアントラニプロール水和剤	育苗期後半～ 定植当日	400 株当り 25mL	灌注	いずれか 1 回
プリロン粒剤 プリロン粒剤オメガ	○	○	28	シアントラニプロール粒剤	育苗期後半～ 定植時	2g/株	株元散布	
ベネビア OD	○	○	28	シアントラニプロール水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	3 回以内
ヨーバルフロアブル	○	○	28	テトラニプロール水和剤	収穫前日まで	2500 倍	散布	3 回以内
プレオフロアブル	○	○	UN	ピリダリル水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	2 回以内
グレーシア乳剤	○	○	30	フルキサメタミド乳剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2 回以内

(2025年5月14日時点)